

在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2017/07 中期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

★特集 北大入試研究会（駿台・河合塾）

夏休みに向けて家庭学習の計画を進めていると思いますが、今回は5月に駿台、河合塾にて北大の研究会に参加した先生方（英語 宮澤宜法先生・奥田先生）のレポートをまとめました。ぜひ夏休みの計画に盛り込んでほしいと思います。また、国語・数学についても引き続き掲載します。

駿台 宮澤宜法先生
総論

1. 特記事項

- 1) ①と②内容一致問題から「内容に一致しないもの」を選ばせる問題が2年ぶりに復活。
- 2) ① 3年連続で出題されていた「下線部のように言える根拠(理由)」を問う設問がやや容をえつ つも、①の問5で今年も出題された。
- 3) ③ 英作文問題のQuestion Cは昨年よりも難化。問題文は読みやすかったものの、解答作成には 苦労した学生が多かっただろう。
- 4) ③ 昨年は語数がapproximately 70-100 wordsとされ、さらには100語を超えても減点されないことが明示されていたが、今年是指定語数が”a 70-100 word paragraph”に戻った。
- 5) ④ 2014年以来3年ぶりに選択肢がまとめて与えられる形式に戻った。また、会話が3者によるものであった。

各論

③の英作文で差がついた。合格者と不合格者の差が最も大きいのが、英作文。日本語で出題され、答えは英語で書くような問題は差がつきにくい(例:世界中の人が同じ一つの言語を使っていたら、我々の社会や生活はどのようになっていたと思うか。50～60語で書きなさい)。また、イラストに描かれた状況を自由に解釈し、40～50語の英語で答えさせる問題も差がつかなかった。これらは単一の能力を問う問題であった。差がついたのは、統合的な問題(例:リーディング+ライティング、英語で読んだことを元に英作文する)である。例として2014年の問題を挙げる。

以下のような有名な言葉がある。これについてどう考えるか。50～70語の英語で記せ。ただし、下の文をそのままの形で用いてはならない。
People only see what they are prepared to see.

この文をどう解釈するかという、統合的な能力が問われた。他にも、グラフを見て英作文をする問題や英文を読み英作文する問題も統合的な問題といえる。

一つの技能を問う問題では差がつかない(センター試験は単一の能力を問う試験)。早めに対策すべきは、統合的な問題である。

現役合格するためには、1・2年生の過ごし方が大事。「例文の暗記」と「文法」は高2で固めておくこと。これらができていないと、英作文はできない。

英作文で語数をかせぐには、「譲歩」と「言い換え」が効果的。「確かに便利にはなる

が、・・・(この後にメインの主張が続く)」というように、譲歩の節を入れて、語数を稼ぐことができる。言い換えの例としては、「あのチームは弱い→強くない」。また仮定法を使い「もしも～であるなら、・・・」と言い換えのツールとして使うことができる。

④は[I]を置いておいて、[II]から取り掛かるのも手である。解く順番に正解はない。選択肢(A)～(Z)の品詞は何なのか気を付ける。英作文に30分ほどかかるので、④は15分でやりたい。

① 問4 「具体的に述べなさい」(≡以下の点に注意し、和訳せよ)

- 1) 指示語→内容を明示
- 2) 省略→省かれている語句を補足
- 3) 比喩・曖昧な表現→内容を具体化

「和訳せよ」という問いならば、指示語はそのまま「それ」でよいが、「説明せよ」という問いならば、内容を明らかにしなければならない。比喩は具体的に説明しなければならない。例えば、「石を投げられる」を「非難される」と具体化しなければならない。

問5 筆者の考えを選ばせる問題

不正解の選択肢を見抜くには以下の点に気を付ける。

1. 「全体・部分」全否定なのか部分否定なのか。「全部そうだ」と言い切れるものはこの世には少ない。alwaysやneverに注意。
2. 「つまみ食い」本文中の色々な単語を組み合わせて、適当に作られた文。
3. 「因果関係」関係ないものを関係させている文。
4. 「主体・客体／肯定・否定」やっている人とやられている人を入れ替える。肯定と否定を逆にする。
5. 「比較」本文中の表現の中のmoreをlessに書き換えたものが選択肢にあったり、本文中で比較されていないものが比較されている文が選択肢にあったりする。

2017年度の②について

「ヴァナキュラー建築と持続可能性」であった。長文のテーマは、学生に身近に感じてほしいと大学が思っている話題が選ばれる。

問1 下線部の語に最も意味の近い語句を選択(客観)

問2 空所補充(客観)

問3 下線部和訳(記述)

問4 下線部の具体例を説明(記述)

問5 下線部の具体例として述べられていないものを指摘(客観)

問6 内容と合致しないものを選択(客観)

河合塾 奥田先生

【出題内容】

2017年度の北海道大学(前期)の入試問題は読解1問、英作文1問、会話文要約1問の計4問(150点満点)で、例年通りの出題形式でした。全体の分量が減少しましたが、難易度はやや上がったようです。

話は少し逸れますが、大学入試は今大きな転換期を迎えています。今の1年生を最後に現行の大学入試センター試験は廃止され、中学3年生からは「大学入試共通テスト(仮)」が導入されます。マークシート方式だけでなく、国語と数学の試験は一部記述式になることもほぼ決定しています。単なる「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力」を問う、というのが文部科学省の方針です。したがって、この「思考力・判断力・表現力」を問う問題が、特に二次試験では今後増えることが考えられます。2020年に出題形式や内容が突然ガラッと変わるわけではありません。現在の問題を踏まえつつ、少しずつ変わります。2018

年度（現 3 年生）、2019 年度（現 2 年生）、2020 年度（現 1 年生）の入試を「利用」して、スムーズに移行することを大学は考えています。その意味で、この「思考力・判断力・表現力」重視の傾向は、皆さんにも関わる問題です。

では、英語科目における「思考力・判断力・表現力」とは具体的にどのような力なのでしょうか。河合塾では次のように整理しています。

- ①概要や要点を理解する力 → 「本文の内容に一致しないものを 3 つ選べ」
- ②議論の論証の手順を理解する力
- ③必要な情報を抽出し、分析する力
→ 「下線部が意味する内容を、(A) (B) それぞれについて具体的に説明せよ」
→ 「下線部の例として、本文で述べられていないものを 1 つ選べ」
→ 「下線部の意味を変えずに次のように書き換えた時に、空欄（ ）に入る最も適切な語句を選べ」
- ④複数の資料や意見の関係性を類推・比較する力
→ 「3 人の対話文」を読み、「要約文」の空所を埋める。
- ⑤多くの視点から課題を分析する力
→ “The text describes two contrasting examples of work-life balance in France and Japan. In your opinion, what are the advantages and disadvantages of the Japanese style work-life balance? Write a 70-100 word paragraph, providing specific reasons to support your opinion.”

⑥思考の過程や結論を論理的に表現する力 → ⑤の設問に関連
⑦内容や状況を具体化したり、一般化したりする力
→ 「下線部の意味を、**their** が何を指すか明らかにして、具体的に述べよ」
⑧答えが一つに定まらない問題に自ら解を見出す力 → ⑤の設問に関連
これらを問う問題が、既に今年度北海道大学の英語で出題されています（「 」や“ ”が今年度の問題の一部です）。特に特徴的なのが③と⑤で、③の「下線部の意味を変えずに…」の問いはこれまでになかった形式です。従前なら、単なる和訳問題だったようです。皆さんの中にも、和訳はしたけれども意味が分からないという文を書いた人は多いと思います。この問いは、意味が分からなければ正解できませんし、英語を英語のまま理解することも同時に求められているように感じます。

⑤は、英文を読み、部分英作文（Question A・B）及び自由英作文（Question C）をするという毎年恒例の問題ですが、「賛成意見」「反対意見」どちらかを述べさせる Question C の問題が、今年度は「長所と短所の両方を述べる」とう形になりました。一方だけでなく、「多くの視点から課題を分析する力」を求めていることが良く分かる出題です。

北大では、来る 2020 年度以降の大学入試改革に向けて、独自の入試システムの導入を検討しています。特に後期試験に独自色を出そうとしています。その流れは前期試験にも当然押し寄せてきます。北大が受験生（入学生）に求める能力を「コンピテンシー」（能力）とし、「北大版コンピテンシー」と名付けて、様々な力を能力毎にカテゴライズしています。数ある項目のうち、英語との関わり

の強い項目が、例えば ①豊かなコミュニケーション力 ②バランスの取れた国際感覚 ③多様な文化や価値観の寛容 です。

ここ 2 年間の北大の長文のテーマは次の通りです。

2016 年 ① 現代人は狩猟採集民時代よりも豊かなのか ②分解によって異なる食生活

2017 年 ① ダークツーリズム ②風土に根ざした建築の価値

これらのテーマは②③の項目に関係しています。国際感覚を持ち、多

様性を受容できるだけの寛容さを持つことを北大は求めていると言えます。文系・理系にかかわらず、北大生ならば有して欲しい能力だという、北大のメッセージがこのテーマには込められていると考えられます。

【対 策】

このような変化に対応するために、皆さんには日頃からどのような心掛けが必要でしょうか。

①視野を広げる
物事には見方が両面あるはず。それ以上あるかも知れません。常に一つの問題の両面から考えて、思考を柔軟にする必要があります。自分の意見と合致しやすい側の意見は当然述べやすいですが、反対の意見はちょっと・・・というのでは片手落ちです。自分があまり考えないような側に敢えて立ち、違う視点を素早く考え、英語にできる必要があります。

②毎日英文に触れる
第 3 問で得点できなかった受験生は、恐らく第 1 問・第 2 問・第 4 問の英文を読むのに時間を要し、第 3 問に時間を充当できなかったと予想されます。第 3 問のあとに受験生が苦手意識を感じている第 4 問が控えており、精神的にも追い込まれると「普段通り」のペースでの解答は難しいでしょう。余裕を持って後半の問題に臨むためには、英文を速くかつ正確に読む力が必要です。毎日英文に触れましょう。教科書本文や例文、副教材の長文問題文など、内容を理解している文章を声に出して読み直すことが効果的です。

③本番を意識する
模擬試験や定期試験、部活動の大会終了後に「普段の力を発揮出来なかった」と嘆く声をよく聞きますが、その「普段」にどれだけ「本番」を意識して取り組んでいますか。リスニングは聞き取れなくても待ってくれませんかし、試験は時間が来たら強制終了します。遅刻が多い、未提出物がある、授業が始まる時に席に着いていない、チャイムが鳴ってから教材を出すなど、準備不足の人が「普段通り」本番に臨めば、結果は言うまでもありません。習慣は恐ろしく、体に染みついたものは簡単には変わりません。常日頃から時間管理を忘れず、本番を見据えた「普段」の生活を心がけて下さい。

④細かい点に注意を向ける
北大の設問には「最も適切なものを選べ」というものもあれば、「本文の内容と一致しないものを選べ」「述べられていないものを選べ」のように、設問をよく読まないで全く反対の文を選択してしまうような問が多くあります。また英作文ではミス 1 ヶ所につき 1 ～ 2 点の減点が見込まれます。中でも非常に多いのが「3 単現」の s の間違いや、不規則動詞の活用ミス、スペルミスです。このようなケアレスミスは、日頃から注意して早期に修正・矯正しない限り、本番でのノーミスは望めません。何も考えなくても正しく書けるように、授業中の小テストや単語テストを疎かにせず、100 % 「分かる」だけでなく「できる」状態にすることが大切です。

自分がミスをして、見直し時に気がつけば大事に至りません。しかし、ミスを見逃してしまう人がいます。ミスに気づくためには、やはり自分の答案を客観的に捉える視点や、小さなことへの気づきが必要です。清掃時に机を整えたり、教室の棚を整理したり、落ちているゴミを拾うなど、些細なことへの気づきと行動も受験に結びつくものです。

志望校合格、目標達成は日常生活の延長上にしか存在しません。これまでの取り組み内容（何を）を変えることも大切ですが、取り組み方（どのように）を捉えなおし変えていくことにより、目標達成への距離はより縮まっていくと思いますし、北大はそのような人を特に求めているに違いありません。